

# 成長戦略は成功するか？ —農業と年金基金改革を中心として—

政策研究大学院大学教授  
伊藤 隆敏

- \* 短期的財政刺激から中期の財政再建へ
- \* スタートで躓いた三本目の矢
- \* 三本目の矢は1000本の針では？
- \* 日豪FTA成功がTPPを後押し
- \* コメの減反廃止は脱計画経済の第一歩
- \* 大規模化を後戻りさせた民主党政権
- \* 酪農改革は農協の一括買い上げ廃止から
- \* リスクが高まる年金運用の国債大量保有
- \* 国内債比率引き下げと組織の強化



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は初めて伊藤隆敏先生においでいただきました。皆さんご存じのように『週刊東洋経済』でもいろいろお世話になりましたが、ずっと最先端のところで活躍されて、最近では年金運用の見直し問題でいろいろご発言もされております。今日は農業問題も含めて、皆さんがたいへんご興味のある成長戦略がこれからどうなるか、どういうふうになれば日本がきちんと立ち直ることができるかについて先生にじっくりお話をさせていただきたいと思っております。

（拍手）  
伊藤 皆様こんにちは。今ご紹介いただきました伊藤隆敏です。肩書が4月1日から替わ

りまして、東京大学から政策研究大学院大学に移りました。

本日は、「成長戦略は成功するか？」という題でお話しさせていただきます。もちろん成長戦略というのはアベノミクスの第三の矢と言われているものですが、第一の矢と第二の矢についても少し申し上げたいので、第三の矢のお話したいと思います。

アベノミクスが始まったのは第二次安倍政権ができた一昨年の12月ですが、事実上は、総選挙が行われるということが決まったあたり、つまり11月の中旬から、すでにマーケットではアベノミクスに対する期待が起きていて、円安、株高が始まっています。だから、私はそこを起点として考えているわけです。